

令和7（2025）年度第1回県西地域医療構想調整会議並びに  
県西構想区域病院及び有床診療所会議 合同会議 結果報告書

- 1 日時 令和7（2025）年7月29日（火）19時15分から20時30分
- 2 場所 上都賀庁舎5階大会議室とWEBのハイブリッド
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 議題（上都賀郡市医師会会長の久保委員が議長に選出）

（1）地域医療構想の進め方について【資料1】

県西健康福祉センターから資料に基づき説明。質疑等は以下のとおり。

〈上都賀郡市医師会副会長 伊藤委員〉

- ・グランドデザインの対応方針について、「現実的に取り組めること」と「そうあるべきだが取組が困難なこと」の両者を整理して記述してはどうか？

⇒委員から異論なし

〈日光市薬剤師会会長 長谷川委員〉

- ・2025.5.21改正薬機法により、医薬品の安定供給に向けて薬局と関係行政機関との連携がうたわれている。管内は特に面積が広大で、薬局・薬剤師の偏在など課題が顕在化している。医療提供体制の中に医薬品提供体制の確保について位置づけてほしい。【薬剤師会提供資料】

⇒（久保議長）

医薬品提供体制についても項目の1つとして、部会で協議してよいと思う。  
話し合いに必要な人を今後推薦していただければと思う。

（2）外来医療計画に基づく地域における外来医療機能の不足・偏在等への取組について  
【資料2】

県西健康福祉センターから資料に基づき説明。質疑等は以下のとおり。

〈上都賀郡市医師会副会長 伊藤委員〉

- ・全医療区域の取組か？宇都宮市だけか？

⇒（医療政策課 早川主幹）

もともとは外来医師多数区域が対象であったが、それ以外の地域でもやはり担い手の減少があるため、新規開業医には趣旨を理解いただき協力を願いたいことから、全県的に広げることになった。開業される方に、今後こういう協力を求められるという認識をいただくためのひとつの手法として御理解いただきたい。

- ・例えば、宇都宮で開業しようとしている新規の方に、外来医療機能の偏在状況を

提供して、日光などの資源が乏しい地域に誘導するとか、そういった活用も一つではないか？

⇒（医療政策課 早川主幹）

かかりつけ医機能報告制度とも関連しており、それぞれの地域でどういう医療機能があって、逆にないかということを整理し、見える化するための報告書となっている。県内全域・各地域でまとめるので、そういった情報提供ができるよう考えていきたい。

- ・かかりつけ医機能制度に関しては、医師会と行政の認識で少し食い違いが起きていると聞く。行政としては地域に関わる情報という捉え方のようだが、医師会がみんな賛成している制度ではないと思う。医師会とのズレに関してはどうしていくのか？

⇒（医療政策課 早川主幹）

誤解を招きやすいところではあるが、かかりつけ医機能をどうするかであり、かかりつけ医そのものをどうするかということでは全くない。県としても十分説明を尽くしていきたいと思っている。この制度は、地域で、かかりつけ医の先生方がこれまでやってきたものを整理して、それを地域でどのくらいあるのか、ないのかを見える化するためのもの。もう少しわかりやすい制度として努めていきたいと思う。

⇒（大久保議長）

ここに開業しては駄目だという誘導ではなく、開業するならこういう所がいよいよという形で情報を振ってもらえるとうまくいくのでは。「かかりつけ医」という名称の問題も大きい。制度内容と名称が繋がっていないのに、名称が一人歩きしてしまっている状況ではないか。

### （３）外来医療計画に係る医療設備・機器等の効率的な活用について【資料３】

- ・ 県西健康福祉センターから資料に基づき説明。質疑等なし。

### （４）その他

- ・【資料４】【資料５】【資料６】については資料参照。
- ・かかりつけ医機能報告について【資料７】に基づき医療政策課から説明。

⇒（大久保議長）

受診している患者に対して、介護など色々な連携を図る、もしくはその病院ができることを明確にするということなのだと思う。今までやってきたことだが、名前だけが定着してしまっている。これに関しては病院、クリニックのみでやっていくことは当然できないと思うので、関係機関との連携、もしくは情報提供、共有の在り方について、行政と密に連絡を取り合いながら、やっていければいいと考える。そうすることによって、患者へのサービス提供がさらによくなると思う。

- ・その他 ※非公開の議題

⇒質疑等なく、了承された。

#### (5) 会議全体を通してのコメント

〈地域医療構想アドバイザー 白石常務理事〉

- ・ 県西地域では高齢化が顕著で、患者動向としても流入より流出が多い。
- ・ 医師多数区域に入ると思われる宇都宮圏域においても、夜間休日救急診療の医師を東京など遠方から依頼しているという話も聞く。在宅医療に関しては、診療内容がある程度決まっているということから、働きやすさという点で女性医師が増えているという話も聞く。県西地域はおそらく医師が集まりやすい地域ではないと思うので、いかに関係機関とうまく連携を図りながらやっていくかということが大事なのではないか。

〈上都賀郡市医師会副会長 伊藤委員〉

- ・ 高齢化や人口減少が進むなか、グランドデザインは明るい未来であり、これから先大事なものだと思っている。
- ・ 人材不足、小児救急に関しては早急には解決困難であるが、実的に取り組めそうなのは、多職種連携だと思う。そういう縦横の繋がりについて、行政や国にもマニュアルづくりなどを期待したい。
- ・ 不安に思っているのは、病院の経営難である。病院がなくなるのは開業医にとってもつらい。介護関係の事業所も同じ。うまく収支がつくような診療報酬改定があれば変わってくるのではないか。
- ・ グランドデザインにおいて「地域で完結できること・充実を目指すこと」と「広域・全県で対応すること」があるということは非常にいいと思う。
- ・ 引き続き部会でも顔が見える状況で、いろんな意見を伺いたい。

〈上都賀郡市医師会長 大久保議長〉

- ・ 人材が減ってきているなか、医療機関だけではなく行政も含め、みんなで一緒にやっていかないと立ち行かなくなると思う。この地域はなるべく皆、顔が見える仲間として、これからも一生懸命やっていければと思う。